



伊勢崎佐波医師会 坂口こども診療所 医師 **坂口 雅夫** さん

③ 医師として子どもや母親に接する機会は、病気による受診のほか、出産から就学時まで続く各種健診の時です。健診では産科・小児科などの医師に加え、保育士や助産師などさまざまな専門家が関わることで子育てをサポートしています。今後は、病児保育やシングルマザーへの支援、発達支援児への対応、子育てにおけるスマートフォンの使用などの課題に取り組んでいく必要があります。

児童センター母親クラブ 会計 **本多 恵美** さん

② 妊娠や出産のサポートに関する情報が、必要な人に届いていないと感じます。例えば、母子手帳の交付時に「思いやり駐車場利用証」を案内し、利用可能になる妊娠7か月頃には産後ケアの詳細を改めて周知するなど、時期に合わせた「段階的な情報提供」が重要です。こうした工夫をすることで、転入者や外国籍の人も含め、誰もが安心して出産・育児の準備ができるようになります。



なかよし保育園 保護者 **小林 千歩** さん

① 妊娠・出産に関する正しい情報の提供と、不妊治療費の助成拡充が重要です。不妊治療費については、助成額を増額することを検討してもらおうなど、治療を受けやすい環境づくりが必要だと思います。
③ 子育ての悩みを相談できる人の存在が欠かせません。市職員と信頼関係を築き、些細な悩みでも気軽に相談できるような環境があればありがたいです。相談方法としてメールやSNSなどが活用できれば、より気軽に相談できるようになると思います。

三郷こども園 園長 **松本 典子** さん

③ 子どもは、乳幼児期に生きる力の基礎を培います。保育施設は子どもの権利を保障し、心身の成長を支える場であり、また、保護者と連携を図りながら、子どもが自分らしく成長できるよう経験を通して学ぶ場です。加えて、保護者の仕事と子育ての両立をサポートするため、育児相談や病児保育、一時預かり保育、児童発達支援事業など、多様な保育サービスを提供しています。今後は、保育士不足や保育の質の確保、子どもの発達課題への対応、保育士の処遇改善などの課題に取り組んでいく必要があります。



iミーティング

を開催しました

1月21日に「妊娠前から子育てまでの一体的な支援」をテーマに「iミーティング」を開催しました。医療・保育・子育て支援団体の関係者や、実際に子育て中の保護者6人をパネリストに迎え、日頃の活動や実体験を基に、さまざまな視点から現在の支援状況や今後の課題などについて語ってもらいました。市は、皆さんからの意見や提案を参考に、妊娠前から子育てまでの一体的な支援のさらなる充実を目指します。

問 広報課(☎27-2711)

iミーティングは、市長が市内で活躍する皆さんと、市政の課題などを話し合う懇談会です。市HPで動画を公開しています。



テーマ 妊娠前から子育てまでの一体的な支援

パネリストの考えや意見・提案

パネリストの皆さんの考えや提案などを、次のサブテーマに沿って紹介します。

- ① 妊娠を望む人への支援
- ② 妊娠・出産・産後までの支援
- ③ 乳幼児の子育て支援



伊勢崎佐波医師会 新産婦人科医院 医師 **名古 純一** さん

① 男女が共に将来設計を見据えて健康を管理する取り組み(プレコンセプションケア)として意識してほしいのは、性感染症の予防と早期発見、既往歴や持病(精神疾患を含む)の把握と適切な治療、適正なBMIの維持です。将来の妊娠に備え、自分自身の健康状態を整えておくことが大切です。
② 令和7年度に始動した「妊婦のための支援給付事業」は、良い制度だと思います。医療機関と自治体が連携し、特定妊婦への細やかなフォローや産後の経過観察、保健センターによる訪問支援など、地域全体で「切れ目のない支援」を行う必要があります。

群馬県助産師会 真下助産院 助産師 **真下 由利子** さん

① 群馬県助産師会では、小・中学生を対象に命の大切さを伝える出前講座を行っています。命の教育を土台に包括的性教育を行い、自らのライフプランの中でお互いを尊重し合い妊娠を考えることが大切と考えます。相談活動などを通じ性の知識不足を痛感しており、プレコンセプションケアも今後の取り組むべき課題です。
② 市と連携した母子保健事業を幅広く担うほか、孫育てや産後うつ予防対策にも注力し、多様なニーズのサポートに取り組んでいます。

